

95号墳

95号墳は、昭和42年に開発工事に伴って96、97号墳とともに新たに発見されたものです。

発見されたときにはすでに横穴式石室の大部分が破壊されてしまっていました、のこ



95号墳の横穴式石室

った石室の奥半分は盗掘にあっておらず、多くの副葬品などが埋葬当時の状態を保っていました。

破壊を免れたのは玄室の奥から長さ3.5mほどの範囲で、幅は1.2m程です。床には礫が敷かれていました。

玄室の一番奥には多くの須恵器が寄せられた状態で重なりあっていました。追葬をかさねて埋葬スペースが不足すると、前に納められた遺体や副葬品を片づける行為が行われますが、95号墳の須恵器も、片



95号墳出土遺物

づけによって寄せられたものと考えられます。

須恵器のほかに、土師器の甌・甕、鉄刀や鉄鏝などが出土しています。

出土した須恵器は、6世紀末～7世紀初頭頃のもの、7世紀中頃のものとがあります。したがって、古墳が造られて最初の埋葬が行われたのは6世紀末～7世紀初頭頃で、7世紀中頃まで追葬が行われていたと考えられます。